

悩む者の祈りは 詩篇 102:23-28

2021. 10. 24(神無月) 丘・中 NO. 668

春日部福音自由教会 山田豊

本日の詩篇の表題(ヘブル語聖書では第1節)は、悩む者の祈り、となっています。深い悩みの中で、心のうちに鬱積した嘆きを祈りとしている詩篇です。あまりにも悩みが深い時には、言葉が出てこないかもしれません。そのような時でも、聖霊が私たちの思いを祈りとして口に出させて、とりなしてくださっているように思います。

1、2節では、この悩みを神が聞いてくださることを願っています。幸いなことに、私たちの悩み苦しきは、たとえ言葉に出さなくても、ちゃんと神さまはわかっているのです。

3-7節には、この作者の深い悩みが、どろどろとした表現で表されています。一つ一つのことばにとどまってイメージすると、こちらも悩みの深淵に引きずり込まれるような感覚になります。ペリカン(ミミズク、ハゲタカの訳もある)とフクロウは宗教的に汚れた動物です(レビ 21:13-19)。一人ぼっちの鳥はスズメのことです。全く一人になって、汚れたところに誰も行かない、一人も助けてくれる人がないような感じでした。

8-11節には、敵対している人たちによって痛めつけられ、文字通り青菜がしおれるように意気消沈している姿が描かれています。人格を否定するような言葉を投げつけられて、苦しい思いをしている人を思い浮かべます。

12節以降は、このような者であっても、神によって立ち上がることの希望をうたっています。この詩篇は、捕囚となったイスラエルの民が帰還し、神殿を再建するころに歌われたものであろうと言われています。かつて都となっていたシオンは、神殿が置かれていました。しかし敵の手によって粉々にされたのですが、その壊された小さな石ころさえも、神はいとおしく思っているのです。そのように、この作者は神によって大切に思われていることを悟るのです。

23節にあるように、自分の目標をやり遂げられず果てることは、無念残念なことでしょう。ですから、そのようにならないことを願っています。しかし、人の齡の長さも、神の手の中にあります。しかし、やがて新しい天と地が開かれるのです。フランシスコ会訳の聖書の見出しには、「復興の祈り」とつけられていました。変わる事のない神を知っていれば、悩む者の祈りは、復興の祈りとなるのです。

引用聖句(いのちのことば社 新改訳聖書 2017)

レビ 21:11-19 また、鳥のうちで次のものを忌むべきものとしなければならない。これらは忌むべきもので、食べることはできない。すなわち、禿鷲、禿鷹、黒禿鷹、鳶、隼の類、鳥の類すべて、だちょう、夜鷹、かもめ、鷹の類、ふくろう、鶇、みみずく、白ふくろう、森ふくろう、野雁、こうのとりの類、鷲の類、やつがしら、こうもりである。

ヘブル 1:10-13 またこう言われました。「主よ。あなたははじめに地の基を据えられました。天も、あなたの御手のわざです。これらのものは滅びます。しかし、あなたはいつまでもながらえます。すべてのものは、衣のようにすり切れます。あなたがそれらを外套のように巻き上げると、それらは衣のように取り替えられてしまいます。しかし、あなたは変わることがなく、あなたの年は尽きることがありません。」いったいどの御使いに向かって、神はこう言われたのでしょうか。「あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで」と。

黙示 6:14 天は、巻物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山と島は、かつてあった場所から移された。

新聖歌 443①

悩む者よ 疾く立ちて 恵みの座に 来たれや
天の力に 癒しえぬ 悲しみは 地にあらじ